



青山病院 『ふれあいニュース』

2025 . 2

2月号

口腔外科

お口に生じる見逃してはならない病変

― 口腔白板症について ―

お口の中にはさまざまな病変が生じます。その中でも口内炎は一般の方にも身近な病変として知られているものと思います。しかし、それ以外で特に見逃してはならないものがいくつかあり、そのひとつが白板症（はくばんしょう）という病変です。

白板症は、前がん病変（口腔潜在的悪性疾患とも言います）と言って「細胞が現状ではがんとは言えないが、将来がんに行進する確率が高い状態」のものを言い、頬粘膜や舌、時に歯肉などに見られる白い病変でこすっても取れないと言う特徴があります。見た目でも表面が平坦で白い均一なものから紅色が混じり、ただれたように見えるものまでいくつかのタイプに分かれます。発症年齢は40歳以降に多く、男性に多いという傾向があります。確実な診断には病変の一部を採取して顕微鏡で調べる病理組織学的検査（生検）が必要です。原因は不明な場合が多いのですが、タバコやアルコールによる化学的な刺激や不適切な入れ歯、歯の詰め物、未治療の虫歯による慢性的な物理的刺激などが言われています。将来的にがんになる確率は約4.4～24.1%程度とされ、白板症のタイプによって若干の違いがありますが、特に紅色を伴うものや舌に発生した

口腔粘膜疾患の予防対策

（セルフチェックポイント）

口腔粘膜（舌、頬、歯肉、口唇など）には、さまざまな疾患があります。その中でも口腔がんは、口内炎や口の中の傷と区別しづらいため、そのまま放置してしまうことや、初期段階では、痛みや出血などの自覚症状が乏しく、症状が出てきた時点で進行している場合も少なくありません。一方で、喫煙や飲酒などの生活習慣を改善し、口の中を清潔に保つ事で予防することができるとあります。進行してから口腔がんは、初期の口腔がんに比べて、手術での切除範囲や治療内容が大きく異なります。手術により舌や顎の骨を切除したり、顔が変形したりする事があり、日常生活に大きな支障をきたす事となります。口腔機能は、咀嚼（噛む）・嚥下（飲み込む）・発声・味覚など生きていく上では欠かせない重要な働きをしています。それらを失うことの無いよう日々、口の中に関心を持つことが大切と考えます。口の中の病気は、体の中にできる病気と違って、目で確認をする事ができます。

口腔粘膜疾患になる前に、普段から自分でチェック（表一）してみましょう。

口腔粘膜セルフチェック

- ・口の中に硬いしこりがある
- ・口の中に出血しやすい場所がある
- ・口の中や唇にしびれがある
- ・口臭があると言われた
- ・口の中が腫れて、入れ歯が合わなくなった
- ・口の中に白い部分または赤い部分がある
- ・原因不明の歯のぐらつきがある
- ・二週間以上治らない口内炎や潰瘍がある
- ・拔牙後の傷の治りが悪い
- ・首のリンパ節の腫れが二週間以上続いている



表二

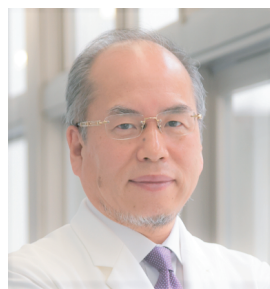
生活習慣の改善

- ・口腔内を清潔に保つ
- ・禁煙する
- ・アルコールを控える
- ・バランスの良い食事を心がける
- ・刺激物や熱い食べ物に気をつける
- ・虫歯や歯周病はすぐに治療する
- ・合わない入れ歯や詰め物があれば早めに直す
- ・定期的に歯科検診を受ける



また、一年に一度は口腔内の検診を受け、早期発見に心がけてください。気になる症状が二週間以上続くようであれば、早めにかかりつけ医や口腔外科医、歯科衛生士などに相談しましょう。定期的な検査はもちろん、（表二）で示すように生活習慣の改善に取り組み、規則正しい生活を心がけながら、粘膜疾患の予防に努めましょう。

以上のことより、当院口腔外科では、口腔がんや前がん病変である白板症を含めた疾患に対して、腫瘍専門医による口腔腫瘍外来の診察を行っております。また、当院医師及び歯科衛生士は、口腔管理のみならず、『**口腔から命を守っていく**』を目標とし、患者さんに寄り添える医療提供を心がけております。どんな些細な事でもお気軽にご相談ください。



文責 奈良県立医科大学名誉教授
口腔外科医師 桐田 忠昭

ものはがん化率が最も高いことが知られています。治療としては、まず原因となっている物理的刺激を除去し、禁煙、アルコールを控えるなどが必要となります。それを行ったうえで、平坦で白色の均一な単純型の場合は経過観察でも良いのですが、それ以外のものは外科的に切除するのが最も治癒が望める治療法です。残念ながら塗り薬や飲み薬は存在しません。また、経過観察する場合も前がん病変であることを十分に留意した注意深い定期的な経過観察が必要です。

白板症は自覚症状に乏しいため、歯科医院での定期的な口腔内チェックや病院口腔外科での診察による早期発見が重要です。



右側の舌に生じた白板症



医療法人ラポール会 青山病院



文責 歯科衛生士 福地 鈴木

健診センター

こんにちは！ 青山病院健診センターです！

地域の皆様の健康寿命延伸をめざして日夜頑張っています。今回は、健診部より大切なお話です。

令和6年より当院でうけられる人間ドックの種類が増えました！

後期高齢者人間ドック、藤井寺市人間ドック、羽曳野市人間ドックなどです。より幅広い年齢層、地域の皆様に利用していただけます。

藤井寺市の胃がん検診が内視鏡でも受けられるようになりました！

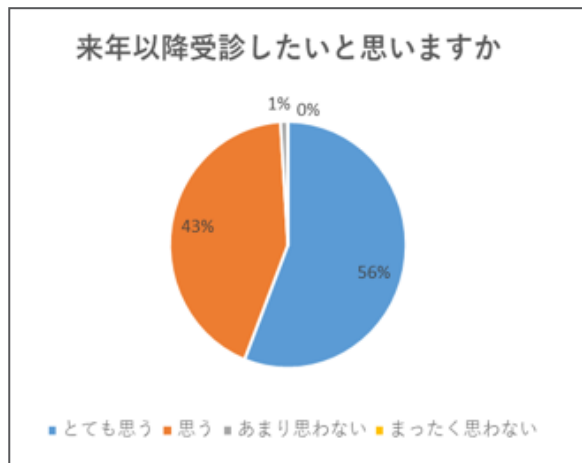
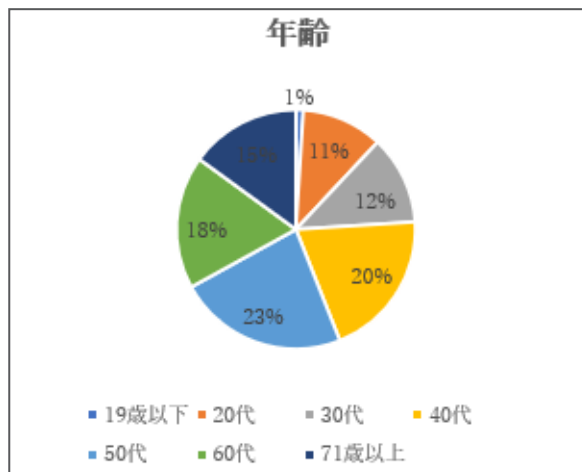
令和6年から藤井寺市でも内視鏡による胃がん検診が始まりました。当院でも対応しています。令和6年4月1日で50才以上の方が対象です。2年に1度受けられます。鎮静剤を使用して楽に内視鏡を受けられます。ヘリコバクター・ピロリ*も調べられます（保険診療となり自己負担があります）。

*ヘリコバクター・ピロリ（ピロリ菌）…胃の中に住みついでいて、胃酸から自分を守るためにアンモニアを産生し、胃炎、胃潰瘍や胃がんの原因となります。
除菌（抗生剤で菌を死滅すること）で胃がんの予防や胃潰瘍、十二指腸潰瘍の再発を抑制できます。

追伸

健診センターは今年で設立4年目に入りました。たくさんの方が当院で健診をうけてくださいました。スタッフ一同、感謝しております。受診者のうち99%の方が来年も当院で健診を受けたいと答えてくださいました。いろいろと至らない点はあるかと思われすがこれからも健診センターをよろしく願います。

文責 健診センター長 北江 秀博



特定健診、特定保険指導ってご存知ですか？

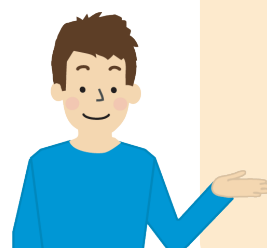
生活習慣病（糖尿病や高血圧、脂質異常）は、症状がなくても心筋梗塞、脳卒中などの疾患につながり生活の質の低下や医療費の増大を招きます。

特定健診は生活習慣病がひきおこすメタボリックシンドロームのリスクの有無を検査することを目的としています。対象者は40～74才です。メタボリックシンドロームの危険があると判断された場合、特定保健指導を受けることができます。

特定保健指導は特定健康診断の結果に基づきメタボリックシンドロームの予防や解消を目的に行われる健康支援のことです。保健師、管理栄養士が積極的支援を行います。突然の病に倒れ、大事な家族に悲しい思いをさせないように、このサポートを思い存分利用してみてはいかがでしょうか？

健診結果を既読スルーにしていると大変なことになります。

健診結果がD判定だったけど症状もないし忙しいし、で放置していませんか？健診センターで内科診察の予約をお取りします。健診後の皆様にも寄り添う健診センターでありたいと思います。ぜひ、お電話ください。



健診センター待合室

青山病院健診センターもこの春で早や4年目を迎えました。専用待合室には、手荷物を預けていただくロッカーを常設しています。お支払いもこの待合室でご精算いただいています。

待ち時間が発生しないよう迅速な対応に努めています。